

**令和6年度 市民と議員の懇談会
実施報告書**

一関市議会

1 開催趣旨

- (1) 市民に開かれた議会をめざし、議会情報の発信と市民と議員の多様な意見交換の場として懇談会を開催するもの。
- (2) 市民から生の声を聞くことで市政課題を把握し、市民の声をベースにした議会活動（一般質問、政策提言等）の推進を図るために開催するもの。

2 懇談テーマ

地域の課題とその解決に向けたアイデアについて語ろう

（サブテーマ：女性が活躍する地域づくり、議会に期待すること 他）

3 懇談対象

- (1) 市内の女性団体等
- (2) 公募による市内の団体等（懇談会に6人以上の参加が可能な団体等）

4 懇談方法

ワークショップ（ワールドカフェ）形式での懇談

5 懇談会で出された意見、提言の取扱い

- 議員全体会を開催して懇談会での意見や提言を共有し、各常任委員会、各特別委員会、議会運営委員会、議員個人の判断でそれぞれの活動に生かす。
- 議長は議員全体会の結果を踏まえ、広聴広報委員会がまとめた懇談会での意見や提言を市当局に対し情報提供する。なお必要に応じて、市長との懇談を行う。

6 開催日時、場所、懇談団体および担当議員

(1) 市内の女性団体等

日時・場所	懇談団体（参加者数）	担当議員
令和6年10月31日(木) 14:00～15:30 一関市役所議会棟	岩手県私立幼稚園・認定こども園 連合会県南地区一関支部 (13人)	◎佐藤真由美 ○那須勇 岩渕典仁、小野寺道雄 沼倉憲二、千葉大作
令和6年11月6日(水) 10:00～11:30 東山市民センター	一関市婦人団体協議会連合会 (12人)	◎永澤由利 ○岩渕優 千葉栄生、千葉幸男 小山雄幸、佐藤浩
令和6年11月9日(土) 18:30～20:00 一関市役所議会棟	一関市消防団女性団員 (9人)	◎菅原行奈 ○猪股晃 齋藤禎弘、佐々木久助 佐藤敬一郎、武田ユキ子
令和6年11月15日(金) 14:00～15:30 一関市役所議会棟	一関商工会議所女性会 (15人)	◎佐藤幸淑 ○門馬功 小岩寿一、岡田もとみ 千田恭平、千葉信吉

◎は班長、○は書記（記録）

(2) 公募による市内の団体等

日時・場所	懇談団体（参加者数）	担当議員
令和7年1月29日(水) 13:30~15:00 一関市役所議会棟	一関地区精神保健福祉地域家族会 (14人)	◎永澤由利 ○千葉栄生 小野寺道雄、小山雄幸 佐藤浩
令和7年1月29日(水) 18:30~20:00 舞川市民センター	舞川地域課題対策協議会 (15人)	◎菅原行奈 ○猪股晃 齋藤禎弘、佐々木久助 佐藤敬一郎、武田ユキ子
令和7年1月30日(木) 18:00~20:00 一関学習交流館	山目地区区長会有志 (7人)	◎佐藤幸淑 ○門馬功 岡田もとみ、千田恭平 千葉幸男

7 懇談会における各団体からの主な意見等

(1) 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会県南地区一関支部

- 保育士の確保が難しい状況にある。保育士全体の賃上げ、離職につながらない対策を講じてはどうか。
- 子供たちを遊ばせる公園が少ないので整備してほしい。また、今ある遊具についても使用できないままになっているものは適切に管理、修繕してほしい。
- 外国人の入園が増えている。日本語がわからない保護者もいるので、日本語で交流できる場、外国人の親子が楽しめる環境を市で設けてはどうか。
- 女性が働きやすい職場環境の向上、女性に対する職場の理解促進が必要である。
- JR一ノ関駅の東西通路を設置し、無料で行き来できるとよい。NEC跡地についても魅力的な場所になるよう整備してほしい。
- 空き家、空き店舗の利活用や新たに発生させない対策の実施、街路灯や防犯灯の設置など、生活環境の改善が必要である。
- 都会をまねるのではなく、一関市の良さ、地域の良さを活かしたまちづくりをしていくべきである。

(2) 一関市婦人団体協議会連合会

- 婦人団体協議会の会員が減少しており、組織の見直しが必要になっている。婦人団体協議会の活動に対する市からの支援をお願いしたい。
- 地域内の移動手段（公共交通）がなくて大変である。（東山地域の）デマンド型乗合タクシーは使い勝手が悪いので改善できないか。

- 小規模農業者でも生活していけるような施策を考えてほしい、盛土農地問題を早く解決してほしい。
- 若者が戻ってきたくなるような魅力を感じるまちづくり、若者が働きたいと思える職場の確保が必要である。
- 土、日、祝日に働く親のために、休日に子供を預かるサービスや施設があるとよいのではないか。
- 市民センター（施設）だけではできない行事があるので、閉校して現在使っていない学校の体育館を市民が利用できるようにしてほしい。
- 福祉乗車券の拡充、スマホ教室の開催など高齢者への支援をお願いしたい。

(3) 一関市消防団女性団員

- 女性消防団員、なのはな隊に対する市民の認知度が低いと感じられるので、市としても市民への情報提供に協力をしてほしい。
- 女性が輝いて働ける企業の誘致、女性が気兼ねなく安心して働ける職場環境の整備などを進めてほしい。
- 地域の基幹産業である農業が衰退している。一次産業への助成を増やし、農業経営の法人化を促進するなどして、若い世代の参入を促してはどうか。
- 個人情報の取扱いが厳しくなっており、災害発生時の対応などの際に苦労する場面がある。
- 女性に特化するのではなく、ジェンダーレスの考え方も大切である。男女が一緒に活動できる環境づくりが必要である。
- 若い人が安心して暮らしていける生活環境の向上が必要である。（子育て支援：給食無料化、医療の充実：産婦人科や外科の充実、働く場の確保：給与が良い、働きがいのある職場、女性も輝ける職場）

- 一関市の特産品を一堂に展示し、販売できるスペースや場所があるとよいのではないか。

(4) 一関商工会議所女性会

- 黒字の商店でも後継者がいない状況にある。商店の後継者として外部からの人材（地域おこし協力隊など）を募集する取組を市でできないか。
- 地元に若者が残れるように働く場所がほしい。市外に出た若者が一関市に帰ってきてくれるような職場をつくる必要がある。
- バスの本数が少なくなった。便数を増やし、公共交通を充実させてほしい。
- 人口減少対策として、外国人の移住、定住を考えていくことも必要である。
- 災害が少ない安全なまち、自然豊かなまちであることをPRし、外部から人を呼び込んでほしい。
- 子育てのサポート制度を拡充し、地域みんなで子育てに関われるような取組を講じてほしい。

(5) 一関地区精神保健福祉家族会

- 障がいを持っている人は災害時に避難所までの移動が困難である。また、一般の方と一緒に避難生活は難しい場合もある。避難所設営、運営時の配慮をお願いしたい。
- 障がいを持っている当事者や親兄弟が年をとると、各種手続きや施設・病院への移動が困難になる。市での支援体制の構築について検討してほしい。
- バスや鉄道の便数が少ないため、施設や病院、作業所などへの移動に不便をきたしている。

- 親が高齢になっても、障がいをもった当事者が安心して生活できるような支援が必要である。障がい者向けのグループホームなどの整備が必要である。閉校して利用していない学校施設をグループホームに利用してはどうか。
- 何か事が起きた場合に、簡単、気軽に相談に行ける場所が常にあれば心強い。横のつながり、親のなきあとの子供の将来、生活面全般について相談する専門家がいると一人で悩まず安心である。
- 行政区長や民生委員に病気や障がいのことを理解していただくための機会、懇談の場をつくってほしい。一般市民との交流の場が少ないことで、病気や障がいに対する人々の理解が不足していると感じる。
- ピアカウンセラーのようなかたちのライブ配信を市で運営すれば、家から出られない重度の障がいの方でも参加出来るのではないか。

(6) 舞川地域課題対策協議会

- 自治会活動や地域組織の役員が高齢化し、次世代の担い手がない。活動を続けていくことが難しくなっている。役員などを減らしていくことも必要ではないか。また、区長の成り手確保のためにも手当（委託料）を引き上げるべきである。
- どのくらいの将来人口を目指すのか数値目標を掲げて取組を進めてほしい。人口減少問題だけを考える人口減少対策室（情報を集める、もっと良くするため、日本一にするため、世界一にするための部署）を設置してほしい。
- 舞川中学校の生徒数は市内で一番少ない。学校統合を早く進めてほしい。
- バスが減便になるなど、とにかく交通の便が悪い。公共交通がないため、親の送迎がなければ学校に通えないという高校生もいる。個人の車で送迎できる仕組み（自家用有償旅客運送）を取り入れてはどうか。
- 婦人消防協力隊の「婦人」をとって、男性も含めた消防協力隊にすべきである。女性だけが炊き出しを行うというのは男女共同参画に値しない。

- 市道の草刈りを自治会で自発的に行っているが、それに対し市から報奨金を出してほしい。次世代の担い手がないので環境整備はあと5年くらいしか維持できない。
- 「カッコいい」、「楽しい」、「自分もやってみたい」と思うようなことを作り出し、私たちができることを進め、つなげ、育てていく取組を講じてはどうか。
- 学生が親の迎えを待つため、一ノ関駅西口から一ノ関駅東口の交流センターに行く際にも入場券を買って通過している。早く東西自由通路を整備すべきである。

(7) 山目地区行政区長有志

- 市で自治会運営マニュアルの作成や自治会業務のDX支援を進めるとともに、自治会業務の負担軽減を図るために自治会ごとに担当の市職員を配置してはどうか。
- 商業施設等の開発、建設に際しては、周辺地域へ与える影響を考慮されるよう市でも指導されたい。特に環境が変わることに伴うゴミステーションや街路灯の新設などは開発、建設時に合わせて進めてほしい。
- 市で各自治会にアンケート調査を行い、課題の把握と課題解決へつなげてほしい。また、市長と行政区長が話し合いをする場を設け、地域の悩み、課題を市長が直接聞く取組があってもよいのではないか。
- 放課後児童クラブ（赤荻クラブ）には多くの児童が登録しており、施設が不足している状況にあるので改善をされたい。
- 都市計画道路（中央町上袋線）の延伸整備を行うことで、安全な通学路を確保することができるのではないか。
- 地域住民が活動するための集会施設、集会所について市で実態把握を行い、施設の確保について支援をしてほしい。
- 空き家が増加し、荒れ放題になっているところもある。生活環境の向上についての取組を進めてほしい。